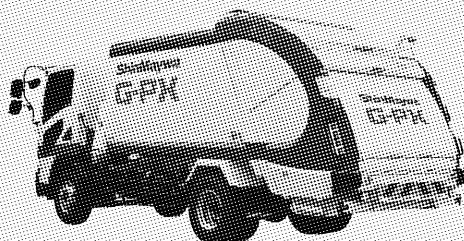


ゴミ収集車 運用支援

新明和、積載量を常時計測

システムと
レシップ開

新明和工業はゴミ収集車の積載量などを常時計測し、効率の良い巡回や車両保守を支援する事業を2025年に始める。バス運行システムを手がけるレシップ（岐阜県本巣市、杉本真社長）と共同で支援システムを開発する。積載量に余力がある車両に対し、満載車置きや積載量、ゴミを押し込むプレート稼働回数などを測定して指令所にデータを送信する。指令所は複数車両の積載量を常時把握し、余力ある車両にゴミが多い収集所への巡回ルート変更・案内や、乗員への到着時刻の連絡を行える。乗員は車載ディスプレイで指令所と通信する。積載量の計測は空、中程度、満載の3段階で示す。プレート稼働回数データからプレートの負荷を計り、適切な保守時期も通知する。通学時間や渋滞を避ける巡回ルートや作業報告書の作成も自動化する。熟練の乗員や指令者が不足しても、適切に収集できるようにする。このほか車両の位置や到着時刻を住



自治体のゴミ収集を支援する（新明和のゴミ収集車）

民らと共有する設定もできる。

新明和工業が自治体に納める新車や納入済み車両から提案する。自治体がシステム会社に個別仕様で発注する手間をなくし、ゴミ収集車メーカーが保守や安全向上などの支援まで引き受けることで差別化する。

レシップは路線バスなどの価格設定も検討し、納入拡大を図る。